



「小学校農業科」取組のポイント

農業は、「土を耕し、種をまき、いのちを育み、いのちをつなぐ」という人間にとって最も基本的な活動です。

ねらい

1 豊かな心の育成

農業活動という直接的な体験を契機に、様々な面から児童の暮らしぶりを見つめ直させ、**豊かな心の育成**を図っていく。

2 社会性の育成

数ヶ月にわたる農作物栽培という具体的な体験活動を通し、児童に責任感を持つことや努力することの必要性を徐々に気付かせ、目標に向かって取り組むことの大切さや続けることの意味を理解させることにより**社会性の育成**を図っていく。

3 主体性の育成

一定の目標を設定し計画を立てて取り組んだり、その時々で必要な対応策を考えたりすることを通して、今、求められている**主体的に取り組む態度の育成**を図っていく。

農業科の効果をあげる3つのポイント

ポイント1：種から行うこと

＜命の不思議、力強さ、そして作物への愛着をもつこと＞

ポイント2：できるだけ手をかけて育てること

＜手をかけた分だけ、学びと成長があること＞

ポイント3：ゴールを見据えて作付けすること

＜いつ、どうやって食べるのかをあらかじめ計画すること＞

＜作物を無駄にしないこと ⇒ SDGsの視点、感動のゴールへ！＞



実践にあたって

1 体験を重視

＜体験だけで終わらない 記録をとる 感想を書く＞

2 限られた時間の中での学習

＜支援員は農業のプロ 教師は教育のプロ プロとプロとの連携が重要＞

3 見通しをもった取組

＜計画が大事 他教科や他の教育活動との関連づけを図る＞



昨年度の成果及び課題の解決に向けて

昨年度の成果

- 直接体験や農業科支援員との交流の重要性が再確認できた。
- 商品化など新たな取組が見られ、児童の社会性の向上につながった。
- 農業科の活動と各教科との関連について、教科横断的な位置付けをすることで、より資質・能力を意識した取組ができた。

課題の解決に向けて

- 他地区から転勤した教員に対し、年度初めに農業科の説明や共通理解を図る。特に、3つのねらいの実現と各教科の目標を意識した研修会を行う。
- 夏季休業中に作物を収穫しないような年間計画づくりを行う。
- 農業科支援員との打合せを密にして、依頼することと、自分たちでできることを教員間で確認する。
- 農業科の取組に協力できる団体や企業のデータをまとめたデータバンクを作成し、データを共有できるようにする。(市教委)

(農業科研究会・農業科支援員交流会より)